

施設キュウリにおけるミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミの総合的管理技術

天敵と天敵温存植物を組み合わせることで施設栽培キュウリの難防除害虫類を効率的に防除できる技術

研究開発の背景

- 施設栽培キュウリでは、ミナミキイロアザミウマ、タバココナジラミの発生が問題となっているが、薬剤抵抗性の発達により防除が困難となっている。

研究成果の内容

天敵、天敵温存植物及び防虫ネットによる施設キュウリの総合的防除技術

- 天敵類の温存植物としてスカエボラ、バーベナ「タピアン」(各50株/10a)を植栽後、栽培初期に天敵のタバコカスミカメ(3千頭/10a×2回)、スワルスキーカブリダニ(5万頭/10a)を放飼する。
- ハウス開口部に防虫ネット(0.4mm白色または0.6mm赤色)を展開



ミナミキイロアザミウマ



タバココナジラミ

対象とする害虫

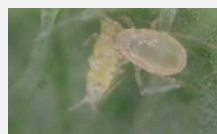


農研機構のホームページにおいて、「タバコカスミカメ利用技術マニュアル」として公開(2015年12月)

・生物的防除法(天敵と天敵温存植物)



タバコカスミカメ



スワルスキーカブリダニ



スカエボラ



バーベナ「タピアン」

・物理的防除法



ハウス開口部に防虫ネットを展開

・化学的防除法

天敵類に影響の小さい選択性剤(他の害虫・病害対策も含めて)

総合的に防除

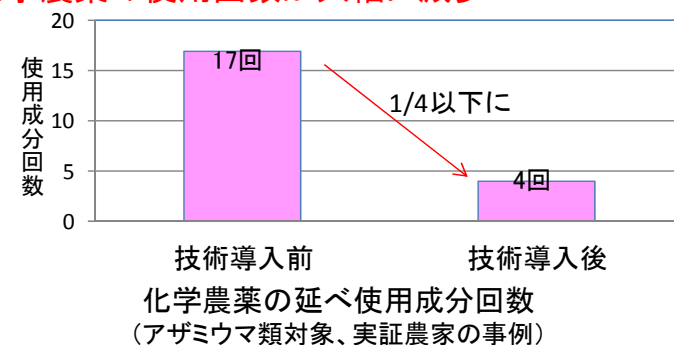
導入メリット

効率的に害虫類を防除

薬剤抵抗性が発達した害虫類を防除



化学農薬の使用回数が大幅に減少



期待される効果

- 施設栽培キュウリの収量の向上・安定化による、生産者の所得増加に寄与する。
- 化学農薬に依存しない総合的害虫防除技術の推進に貢献できる。

開発機関: 高知県農業技術センター、農研機構中央農業総合研究センター、農研機構近畿中国四国農業研究センター、近畿大学、(株)アグリ総研、静岡県、岡山県、予算区分【競争的資金、県単独予算】

導入をオススメする対象
特定農薬としてタバコカスミカメを確保可能な施設栽培キュウリの生産者